



請願第27-8号 (1/7)

笠間市議会議長

藤枝 浩 様

「笠間市地方創生及び、元気茨城づくりの一貫としての道祖神峠のトンネル化について」(請願書)

平成27年8月 21 日

(紹介議員)

飯田 正憲 (飯田)  
田村 泰之 (田村)  
石松 俊雄 (石松)  
野口 圓 (野口)  
石田 守夫 (石田)

(請願者)



## I 請願の趣旨

### 1. 笠間市の都市間交流幹線道路の整備促進ニーズ

#### 1) 笠間市の都市間交流の幹線道路の現状 《添付資料-1参照》

##### (1)笠間の交通体系（東・西・及び南：常磐線沿方面）

笠間の交通体系としては東方面は国道50号線、県道岩間街道等により、笠間市～水戸市とのリンク、そして西方面は、国道50号線により笠間市～桜川市、筑西市とリンクしている。そして南方面(常磐線沿)は小美玉市、石岡市と国道355号線、及び国道6号線等によりリンクしており、幹線道路も整備されている。

##### (2)笠間の交通体系（土浦、つくば方面）

南方面(土浦、つくば)については、まず、笠間～石岡市(八郷地区)と、広域幹線農道のフルーツラインで結ばれ、更に土浦市、つくば市とは、パープルラインを通して接続しているが、現状では山岳道路(道祖神峠)がネックとなっており、アクセス時間、或いは通行止め日数も多く、また危険度を含めた運転負担等もあり、幹線とはなっていない。(パープルラインは朝日トンネルが開通し、残るは道祖神峠のトンネル化が重要テーマとなっている。)

#### 2) 笠間市の市間交流幹線道路・今後の整備ニーズ 《添付資料-2参照》

##### (1)災害時対応ニーズ

##### 県北～笠間～県南(石岡・土浦・つくば) 《添付資料-3参照》

東日本大震災復興・元氣いばらきづくり調査特別委員会結果方向報告を踏まえた、茨城縦貫幹線道路の建設により、日立、大子方面～笠間～石岡(八郷)～土浦・つくば方面が原発事故発生等の避難ルートの確立が提案されている。ベースとなる基幹道路としては、ビーライン～フルーツライン～パープルライン(朝日トンネルは整備完了)がある。

山岳道路の整備としては、道祖神峠(紆余曲折道路としての危険度、及び、通行止め日数多等課題がある)のトンネル化が残るテーマとなっている。(国が進める災害に強い幹線道路の複線化と繋がるもの)

##### (2)都市間連携・広域交流幹線道路の整備ニーズ

笠間市の都市間連携の広域交流幹線道路について、県央、県北、県南(常磐線沿い)県西方面についてはほぼ整備されてきている。残るところは、唯一、八郷経由の県南(土浦、つくば)方面であり、フルーツラインが基幹道路となる。既に朝日トンネルは開通し、残るは道祖神峠のトンネル化であり、整備による地方創生、地域活性化推進のニーズが高まっている。(高規格道路:フルーツラインは従来県道のバイパスの役目)

##### (3)筑波山地域ジオパーク構想ニーズ 《添付資料-6参照》

筑波山及び、周辺地域のジオパークは、笠間・つくば・土浦・石岡・桜川・かすみがうらの各市で構成され、地質的な価値、歴史、文化、自然環境の教育的価値も含め、自然遺産として登録するもの。筑波山周辺地域として笠間は吾国山、愛宕山、稲田白御影石、笠間焼陶土等が含まれる。その中で、笠間～石岡(八郷)～土浦を結ぶフルーツラインの存在はきわめて有効で、基幹道路として、道祖神トンネルの整備ニーズがある。

### 3) 朝日トンネル開通と効果 《添付資料-5.6参照》

#### (1)朝日峠のトンネル化実現

石岡市(八郷地区)～土浦市間は従来ルートのパープルラインについて、朝日峠のトンネル化が完了(H24,11,12開通)し、現在は八郷地区と土浦市、つくば市が直結し、観光・物流・通勤等、地域環境が一変したといわれており、画期的な地域活性化が図られつつある。

■総工費55億円(県+市)、トンネル部39億円、各市合併特例債活用《添付資料-4.5参照》

#### ①交通量の変化(茨城県土木部資料参照で記載)《添付資料-4参照》

◇朝日峠交通量	(H17年時点) = 1,000 台/日
◇朝日トンネル交通量	(H42年目標) = 6,800 台/日
◇ " "	(H24年11月) = 6,820 台/日 【交通量調査の平均: 682%】
	調査時の最大交通量 = 7,654 台/日 (H24.11.16)

#### ②観光・物流・地域活性化等 《添付資料-7参照》

◇観光面、民間果樹園、農園、地域スポットの顧客の増加及び、生活環境の大きな変化(土浦、つくばとの直結)

◇土浦北インターチェンジからの取り込み、つくば方面からの取り込み拡大への地域活性化テーマが石岡市として推進中。

また、土浦市、石岡市共に地域活性化に向けてのアクションを計画中である。

◇物流面では移動時間短縮、有料道路から一般道路活用シフト等、コスト面も配慮され、トラックの増加も非常に多くなっている。

#### ③フラワーパークの入園者増加(茨城県土木部資料参照で記載)

◇【H23.11】	: 11,828人/月 → 【H24.11】	: 16,709人/月 (141.3%)
◇【H23.12】	: 1,190人/月 → 【H24.12】	: 2,199人/月 (184.8%)

### (2)道祖神峠トンネル化・タウンミーティング議事録(経過情報)

#### ①平成25年度、市長と語ろう 第3回 タウンミーティング議事録 《添付資料-8参照》

道祖神峠トンネル化要望意見が出され、市の把握時点情報では、開通時の交通量増加は低く、今後の推移を見ていくとの回答であった。

■笠間市役所・把握の通行量増加情報(議事録) → 従来比 1.8倍(180%)

【茨城県の資料による通行量実績】

■2014年11月平均 = 6,820 台/日 (682%) → 従来比 約7倍

#### (3)市把握情報とその後の運用活発化情報(考察)

市長と語ろうタウンミーティングでの市の把握時点情報では交通量増加率(1.8倍)と非常に低い時の情報であった。その後の茨城県の発表データでは設定計画交通量(H42年目標: 6,800台/日)を既に越えている。(H24.11 平均: 約7倍)

目標交通量達成は県の計画年数より、16年も早い朝日トンネルの実績となった。

従って、道祖神峠のトンネル化は、相乗効果も含め、従来比で8倍超～10倍以上の交通量に早期になることは確実と見られ、市の地方創生上不可欠なものと考えます。

## 2 笠間～県南地区、交流幹線道路整備の効果

### 1) 道祖神峠の現状情報(参考)

#### (1) 朝日トンネルの開通により、残る課題は道祖神トンネル化

朝日トンネル開通により、八郷～土浦間アクセスが画期的に改善され、笠間～八郷間の道祖神トンネル化が残る課題となっている。

#### (2) 道祖神峠の山岳道路としての情報

フルーツラインで唯一の山岳エリア道路として道祖神峠がある。標高も高く、高低差として、道路の急勾配(MAX12%)、があり、冬季の道路凍結、また台風他風水害での通行止め日数が多い。

また、そして紆余曲折も多く、アクセス時間面、危険度からくる運転負担もあり。幹線道路とはなっていない。

#### (3) 道祖神峠の山岳道路データ

	【道祖神峠】	【朝日峠】	※通行止め日数は水戸土木事務所確認
①標高	: 310m	282m	
②道路標高差	: 270m	250m	
③勾配	: 平均10%	平均9%	
④通行止め日数	: ※8日/2013年度	10日/年度 (MAX14日/2010年度)	

### 2) 道祖神峠のトンネル化時のアクセス時間短縮効果

#### (1) 従来・国道ルート

- ① 笠間市役所笠間支所～岩間(355号国道)～石岡(6号国道)～土浦北IC入口
  - 距離 : 38.5km
  - 車移動時間 : 80分 (75～85分で渋滞時間帯は85分)
- ② 笠間市役所笠間支所～友部IC～土浦北IC(125号線出口)
  - 距離 : 43km
  - 車移動時間 : 38分 (高速普通車料金:1080円)

#### (2) フルーツライン・トンネル化ルート《添付資料-11参照》

- ③ 笠間市役所笠間支所～道祖神トンネル～フラワーパーク～朝日トンネル～土浦北IC入口
  - 距離 : 36km
  - トンネル開通後 : 41分 (道祖神トンネル開通前:48～53分・走行実測2回)  
(トンネル化改善時間:予想10分&曲折運転危険解消)

### 3) 都市間連携の時間短縮とトータル効果創出

笠間市役所笠間支所から土浦方面のルートはこれまで国道355号、国道6号経由が大であったが、道祖神トンネル開通後はアクセス時間が約半分(80分→41分)のフルーツライン経由が多くなる。従来の物流、観光等の東京方面高速利用車も、土浦北ICからの利用となる等、ルートが替わる画期的幹線ルートができることになる。

### 4) 笠間稲荷神社、笠間芸術の森公園、門前通り等、観光客増加等の地域活性化

①	県南地区(石岡、土浦、つくば方面)からの観光客は、幹線道路走行時間が従来比:1/2で、より身近な観光地となり、観光客は増加する。(都市間交流の活発化は明々白々である)
②	笠間稲荷参拝者、笠間芸術の森公園(陶炎祭他各イベント)、つつじ祭り、菊祭り、美術館(陶芸・日動)、そして門前通り再開発事業(井筒屋)の観光客増加が確実に期待できる。
③	正に笠間市の地方創生及び、地域活性化とリンクする。

## 5) 災害時対応避難ルートとしての役割・茨城県と連携 《添付資料-3参照》

茨城県の高規格道路整備計画、陸路ネットワーク強化の中で、茨城縦貫幹線道路として、県北地区及び、東海原発事故時の避難ルートの陸路確保となる。

(ビーライン～フルーツラインのリンク = 県の縦貫道路、災害時避難ルート複線化確保)

## 3 幹線道路整備とリンクした地方創生、地域活性化

### 1) 笠間・石岡・土浦・つくばの各都市間連携・活性化

#### ① トンネル開通と地域活性化 《添付資料-7参照》

最大の特徴は朝日トンネル・道祖神トンネルの両方の開通で、共同で観光スポット、活性化アクション、定期行事等を記載し、観光客を呼び込む作戦を展開する。

広域観光の延長として、圏央道が常磐道と直結し千葉、埼玉からの観光客増の可能性拡大もあり、土浦北IC或いはつくばICからの周遊観光客の呼び込み効果が出てくる。

#### ② 都市間連携モデル周遊観光ルート作成・パンフレッド化

・連携都市間の観光周遊ルート(各都市観光スポット) & ジオパーク周遊ルート、そして都市間ツーリング等の特徴紹介と移動基幹道路地図等の整備

・新ルートの魅力、都市間連携情報として広くPRする。(市情報 & 都市間情報)

### 2) 笠間市・地方創生アクション、地域活性化アクションテーマ設定(例)

■地方創生、地域活性化テーマは、基幹幹線道路整備(道祖神トンネル、フルーツライン)に関わるあらゆるチャンネルをリンクして活用する。

#### ① クラインガルテン店舗拡張(道の駅レベル) 《添付資料-9参照》

・農産物、特産物販売、観光客(個人車、バス)休憩食事スポット、周遊観光案内

・自転車ツーリング立寄スポット設定(対応コーナーセット、自転車メンテ部品販売等)

(土浦～道祖神峠～笠間又は稲田～岩瀬はツーリングルートで活発に自転車が通る)

・道祖神峠、道祖神トンネルのスタンプコーナーを設置(走破又は立寄記念)

#### ② 自転車ツーリング開催

・笠間～土浦、つくば・ビーライン～フルーツライン・市内スポット観光ルート等

(現状は別ルートとなっている。例:センチュリーラン笠間2015等)

#### ③ 祭りの公開開催

・市内従来の祭りと併せ、新規エリアの桜祭り、南指原地区のホタル祭り、夏祭り等

#### ④ 果樹園、農園の農業体験、収穫体験等顧客を呼び込むイベント開催

・リンゴ、イチゴ、ブルーベリー、栗、米、野菜等、県内及び県外も対象

#### ⑤ 市の貴重な地域資源として、笠間市民球場の賑い維持拡大

・茨城県高校野球の主要球場である笠間市民球場:(夏18試合、延べ36高校、来市)

・笠間市に将来住んで頂くため、若い世代に笠間市の魅力をPRすることも重要である。

・売店の充実、球場入口脇に専用エリアの設置(売店レベルアップは不可欠)

(笠間特産品、弁当、お土産販売、観光、芸術、史跡、ジオパーク、ツーリング等パンフ案内)

・市内外野球ファンへの球場情報サービス

各大会の情報公開:(市教育委員会・スポーツ振興課HP)による観客増は明白である。

・高校野球ファンは一般幹線道路利用者も多く、県南地区からの来場者が確実に増加する。

## II 請願理由

笠間市の地方創生、地域活性化にあたり、県南との都市間交流の幹線道路整備（道祖神峠のトンネル化）の大きなニーズが3つある。

	<b>災害時対応ニーズ</b>
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城縦貫幹線道路整備として非常に大きな役割を發揮できる。</li> <li>・県の進める元気いばらき調査特別委員会報告事項とリンク。</li> </ul>
②	<b>都市間連携、広域交流幹線道路としての整備ニーズ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間と県南（石岡、土浦、つくば）を直結する幹線道路としての役割を担う。</li> </ul>
③	<b>筑波山ジオパーク構想ニーズ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波山及び、周辺地域（笠間、石岡、土浦、つくば、かすみがうら、桜川）の各都市構成の中で、最も有効な周遊の基幹道路となる。</li> </ul>

効果としては上記①～③項の各ニーズへの対応が図れる他に、下記の有効性を發揮する。

	<b>笠間市隣接県南都市の接近・都市間交流活発化・及び永続的有効性發揮</b>
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県南地区（石岡、土浦、つくば方面）との交流は、走行時間が従来比：1/2となり、観光客、物流（トラック、バス）、産業、通勤面で大幅な交流効果を發揮する。</li> <li>・この幹線道路は笠間市に残された大きな有効性を、今後永続的に發揮できることになる。</li> <li>・つくば市は茨城県にとって、今、最も発展を遂げている都市であり、交流効果は極めて高い。</li> </ul>
②	<b>笠間市観光客の増加</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間稲荷参拝者、笠間芸術の森公園（陶炎祭他各イベント）、祭り（つつじ、菊）、美術館（陶芸・日動）、そして門前通り再開発事業（井筒屋）の観光客増加が確実に期待できる。</li> </ul>
③	<b>笠間市の地方創生及び、地域活性化と正にリンク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生テーマ、地域活性化テーマとのリンクにより、更に大きな有効性を期待できる。</li> </ul>

以上の理由により、「笠間市地方創生及び、元気茨城づくりの一貫としての道祖神峠のトンネル化について」を推進頂きたい、ここに請願致します。

## III 予算について

■合併特例債が期間延長となり 当請願項目の整備にあたり、是非とも **笠間市発展のための合併特例債事業** として推進して頂きたい。

《添付資料-12参照》（石岡市議会・朝日トンネル事例：合併特例債活用の参考情報）

#### IV 添付資料

(添付資料-1) 笠間市の都市間交流幹線道路・現状

(添付資料-2) 笠間市の都市間交流幹線道路・整備ニーズ

(添付資料-3) (1/2) 笠間市議会が知事に道祖神峠トンネル化要望書(日本工業新聞2014.9.10)

(2/2) 県北山間地域の活性化に向けた高規格道路整備イメージ(茨城縦貫幹線道路)

(添付資料-4) 石岡市と土浦市の地域間交流活発化(茨城県土木部資料)

(添付資料-5) 朝日トンネル整備事業 合併特例債事業(土浦市)

(添付資料-6) ジオパーク構想(筑波山地域ジオパーク推進協議会 HP)

(添付資料-7) つくばXP～観光客誘致に向け、朝日トンネル経由バス申請(石岡市)

(添付資料-8) 平成25年度 第3回 市長と語ろう タウン・キング議事録(笠間市HP)

(添付資料-9) 自転車ツーリングで多くのライダーの訪れている道祖神峠・モデルルート(ルートラボ)

(添付資料-10) 土浦ー笠間間の往復はフルーツラインが基幹道路(クラインガルテン)

(添付資料-11) 道祖神峠トンネル化関連実測走行調査(笠間支所ー土浦北IC)

(添付資料-12) 石岡市議会議事録(石岡市議会HPより抜粋記載)【合併特例債活用・参考情報】